

- 【日 時】 平成 30 年 11 月 19 日 (月) 19:00~20:00
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲 さなえ、堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) 風しん対策について (資料 1 P1~5)

2018 年第 45 週 (11 月 11 日) 現在、全国の風しん患者累積報告数は 2,032 件となっている。本市においては、平成 30 年 8 月 27 日以降、10 件の風しん患者発生届出があった。患者は 6 名が男性 (50 代 2 名、40 代 2 名、30 代及び 20 代が各 1 名)、4 名が女性 (50 代 1 名、30 代 3 名) であり、全て国内感染と推定されるが、現在のところ、感染の拡大は確認されていない。

また、風しんの流行に伴い、本市が実施する無料の風しん抗体検査に関する問合せが増加していることから、市内医療機関へ本事業への協力依頼をあらためて行った。さらに、ホームページ等により、これまで風しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない年代の方について、この機会にワクチン接種を検討いただくよう継続して周知を行っている。

(委員意見)

国の動向も見ながら、引き続き、効果的な風しん対策を進めてほしい。

(2) 乾燥 BCG ワクチン (経皮用・1 人用) の取扱いについて (資料 1 P6~18)

日本ビーシージー製造株式会社 (以下「BCG 社」という。) が製造販売する乾燥 BCG ワクチン (経皮用・1 人用) の使用時にワクチンを溶解するための溶剤 (0.15 mL) 中から規格値を超えるヒ素が検出された問題で、11 月 5 日、平成 30 年度第 9 回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会において、ヒ素の曝露による健康への影響評価及び今後の対応について以下のとおり議論された。

- ・最大 0.26ppm のヒ素が含まれる BCG ワクチンを接種し、仮にヒ素が全量体内に入った場合でも、対象児の許容一日曝露量に照らすと、安全性に問題ないレベルである。
- ・安全性に問題ないとは言え、生理食塩液の規格値 (0.1ppm) を超えていることから新しい製品への切り換え、交換を速やかに行うべきである。
- ・今後は、最終製品中のヒ素の濃度を確認することによって、品質を確保すべきである。
- ・関係団体に対し、上記内容の周知を徹底する必要がある。

議論の結果を受け、11 月 14 日に厚生労働省から以下のとおり留意事項について通知があった。

- ・新たなアンプルを用いた製品について、11 月 16 日以降、BCG 社から卸売販売業者へ出荷が開始される予定であること。
- ・新しい製品が供給されるまでの間、添付の生理食塩液以外の日本薬局方生理食塩液を使用することとしても差し支えないこと。
- ・本件に起因する、やむを得ず 1 歳を超えて行った接種について、定期接種の対象外となるなどの不利益が生じないよう調整中であり、別途通知予定であること。

(委員意見)

「本件に起因する 1 歳を超えて行った接種について、定期接種の対象外となるなどの不利益が生じないよう調整中」とのことであり、国から通知があり次第、情報提供をお願いする。

(3) 5 類感染症に関する届出基準等の改正について (資料 1 P19~40)

本年 4 月 26 日の厚生科学審議会感染症部会において、後天性免疫不全症候群 (H I V 感染症を含む。) 及び梅毒について、より有効な対策を講じるため、これらの発生動向を詳細に把握することが重要であるとの意見が示されたことを受け、感染症法施行規則第 4 条第 6 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める 5 類感染症及び事項 (平成 19 年厚生労働省告示第 58 号) が改正された。

あわせて、同様の趣旨から「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部が改正され、平成 31 年 1 月 1 日から適用されることとなった。

具体的には、「後天性免疫不全症候群」及び「梅毒」の届出基準が一部変更となり、前者の届出様式については「診断時の CD 陽性 T リンパ球数 (CD 4 値)」が記載項目として追加され、後者の届出様式については「性風俗の従事歴・利用歴の有無」、「口腔咽頭病変」、「妊娠の有無」、「過去の感染歴」及び「H I V 感染症の合併の有無」が記載項目として追加される。

(委員意見)
意見なし。

(4) 平成30年度世界エイズデーにおける「レッドリボンキャンペーン in 広島 2018」の実施について(資料1 P41~45)

本市では、毎年、12月1日の世界エイズデーに合わせて、市民に対し検査を受けやすい環境を確保するとともに、感染の拡大が懸念されている若年層を中心にエイズに関する正しい知識の普及啓発を図ることを目的として、「レッドリボンキャンペーン in 広島」を開催している。

今年度は、平成30年12月8日(土)にあおぞら健診・内科クリニック(中区三川町1-20 ピンクリボン39ビル7階)にてHIV臨時検査を、アリスガーデン(中区新天地)にてエイズ予防普及啓発を行う。

なお、近年、梅毒患者が急増していることから、今年度はHIV検査に合わせて梅毒検査も実施する。

(委員意見)

患者が急増している梅毒の検査を実施することにより、性感染症予防に対する市民の関心を高めることが、ひいてはエイズ(HIV)予防啓発にも繋がると考える。

2 10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	10月分	11月分
		報告 10/1~11/4	報告日 11/5~11/16 現在
2類	結核	10人 (結核8人、潜在性結核2人)	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人(10/12)	1人(11/5)
4類	日本紅斑熱	1人(10/11)	
	レジオネラ	4人(10/5、10/9、10/24、10/31)	
	レプトスピラ症	1人(10/1)	
5類	B型肝炎		2人(11/6、11/7)
	アメーバ赤痢	1人(10/31)	2人(11/12、11/15)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3人(10/2、10/19、10/30)	1人(11/6)
	急性弛緩性麻痺	1人(10/1)	
	水痘	1人(10/25)	
	梅毒	9人(10/1、10/2、10/3、10/4、10/15、10/16、10/18、10/24、11/2)	2人(11/12、11/12)
	百日咳	11人(10/1、10/3、10/3、10/9、10/10、10/18、10/18、10/19、10/22、10/29、11/2)	
風しん	6人(10/19、10/24、10/26、10/27、10/31、11/2)		

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成30年12月17日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：10月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（11月分）

平成30年11月19日

1 患者情報

(1) 概要

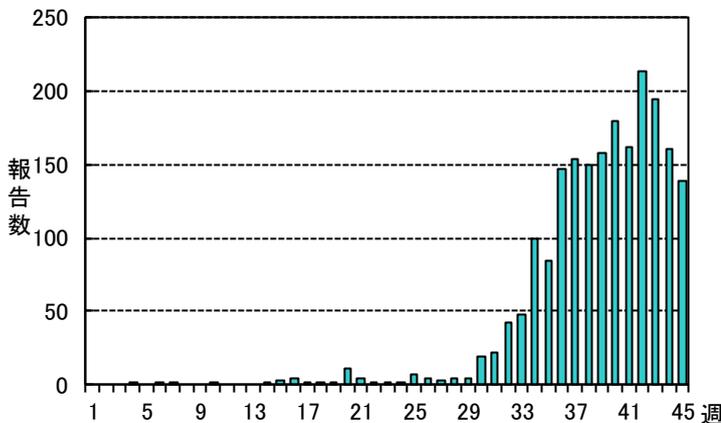
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は1,360人で、前月比0.91とほぼ横ばいであった。

インフルエンザは大きく増加、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘はやや増加、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎はほぼ横ばい、手足口病、突発性発しんはやや減少、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎は大きく減少した。

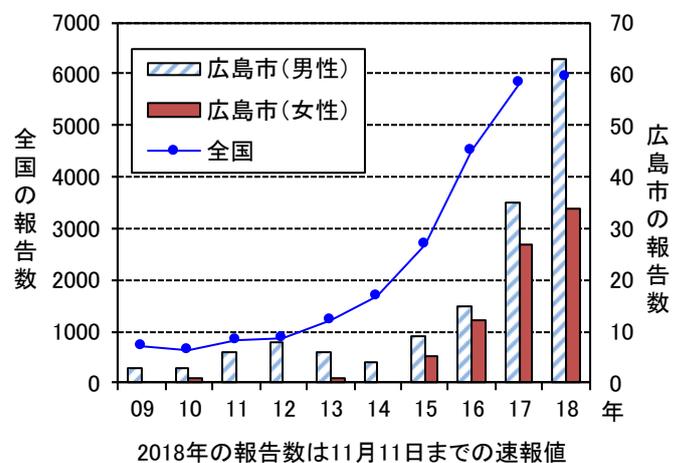
(2) 特記事項

- インフルエンザは、第45週(11月5日～11月11日)に22人(定点当たり0.59人、すべてA型)の報告があった。また、第45週に今シーズン2件目のインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告があった。これから本格的な流行時期を迎えるため、早めに予防接種を受けることを推奨する。また、健康管理に十分注意し、手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防を心がけることが重要である。
- 全国の風しん患者報告数は多い状況が続いており、第45週現在の累計は全国で2,032件、広島市で14件報告されている。一般的に、風しんは予後良好な感染症であるが、妊娠初期の妊婦が感染すると、胎児が先天性風しん症候群を発症する可能性があるため、注意が必要である。風しんの予防には予防接種が最も効果的であるが、妊娠中の女性は接種できないため、妊婦を守る観点から、風しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない人は予防接種を受けることが重要である。また、定期予防接種対象者は早めに接種を受けることを推奨する。なお、広島市では、**妊娠を希望する女性及びその同居者等の方を対象に、無料の風しん抗体検査を実施している。**
- 梅毒の今年の累計報告数は、11月11日現在で97件となり、すでに昨年の報告数(62件)を大幅に上回っている。その内訳は、男性63件、女性34件で、20～40代が患者の約8割を占めており、男性では30代、女性では20代が多くなっている。

全国の風しん週別報告数(2018年第1～45週)



梅毒の年間報告数の推移



(3) 10月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 10件(患者：8件、潜在性結核：2件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：日本紅斑熱 1件 レジオネラ症 4件 レプトスピラ症 1件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3件
急性弛緩性麻痺 1件 水痘(入院例に限る。) 1件
梅毒 9件 百日咳 11件 風しん 6件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行始まり】
- 感染性胃腸炎・・・【流行始まり】

2 検査情報

10月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎・その他の消化器疾患（腸重積症）	パレコウイルス1型	8月	1人
手足口病	*1 コクサッキーウイルス A6 型 *1 パレコウイルス 2 型	7月	1人
ヘルパンギーナ	パレコウイルス 3 型	9月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	8月	1人
無菌性髄膜炎	エコーウイルス 11 型	9月	2人
その他の呼吸器疾患（咽頭炎）	*2 パレコウイルス 2 型 *2 パレコウイルス 4 型	8月	1人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	ライノウイルス エンテロウイルス 68 型	8月 9月	2人 1人
その他の呼吸器疾患（肺炎）	エンテロウイルス 68 型	9月	1人
その他の呼吸器疾患（喘息）	エンテロウイルス 68 型 ライノウイルス	9月 9月	10人 1人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 2 型	9月	1人
その他の神経系疾患	水痘帯状疱疹ウイルス	8月	1人
その他の疾患	パレコウイルス 4 型	7月	1人
その他の疾患（敗血症）	RS ウイルス	8月	1人
その他の疾患（不明熱）	ライノウイルス ライノウイルス コクサッキーウイルス B4 型	8月 9月 9月	1人 2人 1人

*1～2：複数病原体検出例

30人の患者から13種類のウイルス32株が検出された。検出ウイルスの内訳は、エンテロウイルス68型12株、ライノウイルス6株、エコーウイルス11型、パレコウイルス2型、同4型各2株、RSウイルス、アデノウイルス2型、同56型、コクサッキーウイルスA6型、同B4型、パレコウイルス1型、同3型、水痘帯状疱疹ウイルス各1株であった。

5類感染症定点情報
(平成30年10月解析分)

1. 週報対象(第40週～第44週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		64	1.73		10	流行性耳下腺炎		28	1.17	
2	咽頭結膜熱		46	1.92		11	RSウイルス感染症		57	2.38	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		251	10.46		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎		541	22.55		13	流行性角結膜炎		29	3.63	
5	水痘		36	1.50		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		202	8.42		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		12	0.50		16	マイコプラズマ肺炎		7	1.00	
8	突発性発しん		41	1.73		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		26	1.08		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(10月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		30	3.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		13	1.44
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.29
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		3	0.43
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成30年10月分)

第40週～第44週(10月1日～11月4日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	10	110	2,110	18,217
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	-	92	211
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	7	398	3,603
	18 腸チフス	-	1	9	33
	19 パラチフス	-	-	2	19
四類	20 E型肝炎	-	4	48	382
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	66	850
	23 エキノコックス症	-	-	1	10
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	6
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	5
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	3
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	10	74
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	1
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 テクングニア熱	-	-	-	3
	40 つつが虫病	-	1	29	128
	41 デング熱	-	2	26	165
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	5	67	279
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	3
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	2
	55 マラリア	-	-	6	45
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	3	13
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	4	34	342	1,879
	62 レプトスピラ症	1	1	10	30
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	1	9	84	713
	65 ウイルス性肝炎	-	3	35	208
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	10	309	1,837
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	1	1	54	98
	68 急性脳炎	-	5	34	550
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	12	23
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	23	180
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	48	581
	72 後天性免疫不全症候群	-	8	106	1,076
	73 ジアルジア症	-	-	8	63
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	46	406
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	29
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	10	241	2,670
	77 水痘(入院例に限る。)	1	2	43	362
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	9	97	730	5,811
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	15	152
	81 破傷風	-	1	21	110
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	10	67
84 百日咳	11	55	1,835	8,776	
85 風しん	6	14	932	1,884	
86 麻しん	-	-	31	245	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	4	21	